

告 辞

桜の花が咲き、本格的な春の到来を感じさせる本日、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。佛教大学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、本日まで、新入生お一人お一人の成長を支えてこられた保護者の皆さまや関係者の皆さまに、心からお喜び申し上げます。

本日より皆さんは大学生、大学院生、別科（仏教専修）生として、新しい環境に身を置き、新たなステージで学びの歩みをスタートすることになります。佛教大学は、建学の理念である仏教精神を根底に、自分を大切に、他者をも大切にできる人を 100 年以上にわたって社会に送り出してまいりました。その仏教精神とは、仏教を開かれた釈尊と浄土宗を開かれた法然上人に共通の生き方と考え方を指します。それは眼の前に起こる現実を正しく見据え、自分のなすべきことをしっかりと行っていくことに他なりません。

釈尊は、私たちの心のなかにある問題、すなわち煩惱の存在に気づき、それを捨てて生きることを教え、こだわりから離れることの大切さを説かれました。

一方、法然上人の教えに「還愚（げんぐ）」という考えがあります。それは本当の自分を正しく認め、その自分にできることをしっかり携えて、未来に向かって着実に歩いていくことです。いずれも、現実をしっかりと見据え、「自分のなすべきことをなす」ことといえます。

佛教大学で学ぶ皆さんは、それぞれの学びの過程で仏教精神に触れ、それを身に付け、世の中の変化に柔軟に対応できる姿へと変身し、本学を巣立っていく頃には、自分のできることを携え、自信をもって希望の未来に歩いて行ける人になっていることでしょう。

ところで、佛教大学の学生となるに際し、仏教精神とともに皆さんにぜひ心がけていただきたいことがあります。それは「他者を尊重すること」です。私たちはこの世を 1 人で生きているわけではありません。さまざまな他者と関わり、その関係性の中で生きています。だからこそ自分のことだけを考え、気ままに振る舞うのではなく、他者を気遣い、他者を尊敬し重んずる心で接することが大切です。他者を尊重することができれば、多くの人を傷つける戦争などを引き起こすこともなくなるでしょう。

すでにご存じのようにロシアのウクライナ侵攻によって、多くの人々が亡くなっています。他者の命を奪うことを許してはなりませんし、一刻も早く戦火がおさまることを願ってやみません。私たちは、命を落としたり傷ついたりしている人が、ウクライナだけでなく世界の各地にいることに思いを致し、今、できることをしなければなりません。大学で学べる環境にあることに感謝し、真摯に自分と向き合い、新たな学生生活の中で、他者への尊重、平和の意義、協調などを学び

つつ、自分にできることを考えていただきたく思います。

さて、いまだ世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症ですが、残念ながら終息の兆しがみえません。本日の入学式も、このような形を取らざるを得ませんでした。

この形も、眼の前に起こる現実をしっかりと見据え、自分のなすべきことをなすという仏教精神に基づいて、今、私たちができる形で皆さんをお祝いしようという想いのあらわれに他なりません。今、できることで皆さんを心からお祝いしたいと考えております。

私たちは、困難な状況にあっても「学びを止めない」ことを基本姿勢とし、学生と教職員が協力することで、皆さんが充実した学生生活を送れるよう取り組んでまいります。あらゆる危機的状況にも適切に対応しながら、安全に配慮しつつ「学びを止めない」ために必要な対策を積極的に行っていきますので、本学で学ぶ皆さん自身も、コロナ禍における学生としての自覚ある行動をとっていただくことをお願い致します。

困難な状況はコロナ感染症だけではなくありません。地震や気象災害等も頻発するなかで場所を奪われ、命を落とす方、怪我をされた方もあるでしょう。私たちは誰もがそのような状況に遭遇する可能性があります。だからこそ、そういった人々の存在に気づくことが大切です。また、頻発する気象災害の要因の一つとなっている地球温暖化に歯止めをかけることが必要となっています。本学はこの重要性を認識し、カーボンニュートラル（脱炭素）を目指した取り組みとして、エコキャンパス実現に向けた活動や地域社会とともに様々な取り組みを展開していきます。これら社会貢献活動への参画も社会人に向けて重要な歩みとなるものであり、是非とも学生時代に取り組んでいただきたいと思えます。

最後に、皆さんには学生生活の中で、正課だけでなく課外における活動などにも積極的に参加し、多くの人と接し多様な価値観に触れていただきたいと思えます。そこで得る経験は、研究活動に幅を持たせ、客観性を高めることになるのはもちろん、皆さんの人間性にも影響を与える、何物にも代えがたい経験となるでしょう。そして、それぞれが所属する学部、学科、研究科、専攻などでその経験を活かして、仮説を実証し、学問を発展させ、自らの知見を確立してください。

皆さんは本学での様々な学びを経て、着実に成長し変身します。その姿をみて、きっとご家族や友人、皆さんをとりまく人たちは驚かれることでしょう。皆さんの成長と変身が、周囲の人たちにも影響を及ぼして、皆さんを中心として社会が変わっていくことに繋がります。そのようにして、皆さんが社会の中で活躍することのできる力を手に入れることができるように、私たち佛教大学の教職員一同は、皆さんの学びと学生生活を応援していきます。

皆さんの入学を心から祝福し、告辞といたします。
改めまして、ご入学おめでとうございます。

令和4年4月1日

佛教大学長 伊藤 真宏